

自分の足元からのびる、様々な方角に矢印を向ける平らな道。どこに向かおうかと模索する自分。

日々学びという新しさに出会う中で、自分らしさを探し続ける三年間だったと思います。先生方から興味の入り口を与えていただき、日々更新される「知る喜び」を友達と共有しました。耕し、深める毎日は、とても幸せでした。

幸せだったということ。この幸せを追求するための時間は、私をより自立した存在へと導いてくれたと、強く実感しています。例えば国語において、積み重ねてきた、授業中の先生のお言葉や友達の発言。社会では、教わった知識を越えて、自問自答を繰り返すことで膨らんでいく、自分なりの結論がありました。初めて向き合う『アンネの日記』や『黒い雨』など、多くの文庫本に付箋を付けて想像し、授業を心待ちにする時間。日々先生のお話に心を広げたり、培われていく学びの中で主体性を引き出されていく感覚は、自分が満たされ、一回りも二回りも大きくなれるような達成感がありました。

そんな過程を経て見えたのは、他者からの評価や見返りばかりを求めるような苦しく狭い景色ではありませんでした。自由な学び方を経たからこそ見える、広くて彩りある、雑音のない世界。それを自分の心に閉まっておくのではなく、多くの視点で思索してきた、私たちの三年間の国語のスピーチは、私の世界をより研ぎ澄まされたものにしてくれたと思います。私は自分や学校について話すとき、いつも自分と勉強を絡めて話していました。点と点が結びつき太い線となって、自分を表現できるものだと気づけたとき、学びを自分の中に落とし込めた気がして、とても嬉しかったのを覚えています。学びを失敗したことと成功したことに分けたとしても、二つともが自然と今の自分を創っているのです。そんな私にとっての学びは毎日を意欲的に過ごす原動力であり、自分の考えが自分の中に浸透し、繋ぎ留められていくものだったのです。

人と人が繋がること。それは一本の道が大きく広がっていく時間の経過にあると思います。私にとって自治を見つめ直した三年間は他者との繋がりが私を大きく前進させてくれました。仲間や同級生が熱心に自分のすべきことを成し遂げていく姿は、私が自治に日々向き合うときに、いつでも思い出され、刺激を与えられるものです。お互いが担った役割を終えたとき、仲間が掛けてくれるありがたいの言葉や、仕事がつとまるのか考え込んでいたときに担任の先生が「やっていく内に器ができてくるのだ」と私が前を向くのを支えてくださったこと。きっと大丈夫だよ、と他者が私に与えてくれる自信は自分が自分に向けようとする自信よりも、ずっと大きく強く私の心に残り続けています。

生徒会総務の基本方針を考えたとき、私たち八人は各々が想いを込めて持ち寄った案に、それぞれが既に満足してしまっていたかもしれません。しかし話し合いを進めるにつれ、その満足によって隠されてしまい、一人では気づくことのできなかつた思いのかけらに、目を向けられました。その時、出来上がった「Signal=みちの景色」の前で重なり合う八人の道に感動すると共に、多くの案に対してじっくりと向き合った私たちの心も満たされ、広がっていくことを感じました。何か形になった明確な自分でなくても、満たされていく過程を実感したり、感動したりすることが自分らしさであることを理解しました。話し合いを通して、取りこぼされることなく、自然と皆で大きく広げていく一本の道。「Signal=みちの景色」という基本方針は自分たちらしさの全てが詰まる形なのです。その後の一

年間、この基本方針が私たちを繋いで、それぞれの自分を振り返るきっかけとなりました。

自分を模索する、と言っても自分とは何か見つけ出すことは簡単ではなかったように思います。私にとって自己表現とは、勉強・自治・友達との間での自分の在り方でした。しかし、その自己表現の中の個性を知り、納得することは、私にとって難しいものでした。どの教科に対しても同じ熱量で向き合い、受け止める私は、特別好きなことや興味のあることが、その人の代名詞になっているクラスメイトと関わることで、個性がない空っぽな自分に気づかされることになりました。平らで一直線に取り組むことを大切にしてきた私にとって、三年間真面目に過ごしてきた「つもり」であった気さえしました。私は形として表される個性を知ることで、自分の存在意義を確かめたかったのだと思います。自分を表したいという意志はあっても、個性がなければ、自分らしさとは言えないと思っていたのです。しかし、段々と自分が満たされていくことを実感するようになったのは、三年間を特定の出来事かいつまんで振り返らずとも、何気ない日々が積み重なった今を大切に見つめたときだとわかりました。「自分」が断片的な出来事の連なりで創られているのではなく、もう忘れてしまっているかもしれないくらい、小さな言葉や行動も含めて、全てが連鎖して「自分」が創られ、満たされ、広がっていくことを強く実感するのです。空っぽな自分に気づかされたのは、他者との関わりからであり、また満たされていく自分を実感するのも、他者と繋がることで創られる自分です。

どの場面を切り取ってもかけがえのない、この三年間の学びは、これからも私たちの軸であり基盤です。私たちを支えてくださった先生方、職員の皆様、笑顔で見守ってくれた家族、今まで本当にありがとうございました。三年という時間の中に散りばめられる、自分を広げるチャンスを掴もうとしたとき、交わり合う私たちの道。想いを心に抱く自分と、道の上にいる自分。これからもそれを共に受け入れ、満ちていく自分を実感する日々をしたいと今、思います。

二〇二四年 三月十八日 卒業生代表